

この期に及んで崖っぷち

土岐市 極善寺 最上 知道

今まで法話の席で、次のように話してきた。

念仏申すと、ありとあらゆることが引き受けられるようになる。自分にとって都合のいいことも悪いこともすべて、あれもこれも皆、引き受けて生きることができるようになる。それが念仏の功德である。

そんなことを言っていた私が、ここにきて癌になった。いまや2人に1人が癌になると言われている。確率は1/2。五分五分だと考えれば、さほど驚くべきことではない。しかし、癌と診断がくだった途端、ドッシリ構えてなどいられない私自身に直面した。今になってそのことが確かめられたという恥かき話を皆さんに伝えたい。

1年に1度のペースで癌の手術。そんな生活が3年も続くとイヤになってくる。3ヶ月ないし6ヶ月ごとに転移があるかどうか検査を受け、検査後2週間ほどで結果を聞きに行く。その前の晩には否応なく、それまでの癌の手術が思い出される。手術のたびに、手術着を着て看護師に手を引かれて手術室の前にたどり着く。そこには友達も同朋もいない。つれあいと息子と娘が横一列に並び、無言で見送ってくれる。「さようなら」とも言えず、私は一人で手術室に向かう。

昨年末にも検査結果を聞きに行った。前の晩、転移がないようにと祈る気持ちで「南無阿弥陀仏」とつぶやいた。その途端、あまりのことに思わず笑えてきた。そして涙が流れた。なんだ。ぜんぜん引き受けてなどいないではないか。今、口をついて出てきた念仏は一体なんだ! ああ!この期に及んで!

「さるべき業縁のもよおせば、いかなるふるまいをもすべし」聖人の仰せに励まされ、今年も老いと病とを元気に生きる。

そんな自分に向き合うことによって、今まで心底病人や老人に寄り添うことがなかったと気づかされた。親の死も当然と泣きもせず、突き放してきた。今になり、自分勝手な願いに生きた今までを悔い、父や母に詫びる。

仏の名だけが私の支えだったことを思い出し、今日もまた一步踏み出す。